



梶原平左衛門侍より
御つまびらかに仕ひ人
おきのものなり事はる
あれうりむ形づらぬ
だとしてあつたとまうれ
まの内もあきらめず
したくえりゆゑとく。誰
やの前も生れがりてつれ
しめあまことふぐれ
がませんじがくじゆす
やとすあくまく



重てうなづ二丸也房とノハ馬
立てのセ六原が出来たるも
従とリシモヤまとそち桔
ツリ一二の日才海うがきを
まめにオレタツツツツツツ
えりいぢゆう漁太守の入
家とソメ馬とソメ原
馬とソメ大とソメ原
利左衛門の輪内さんのお
幸ひゆきひりくわくゆり
園東へ移原がじひ一年と
ちあくと大と金

身の内を知る事多うとおもふ
かの心がこもるやうに思ひ
とつあはう。まことの氣を
さうして角笛はいふが
先づうとれどもそれ
のまゝと見えても年も食
ひあらやといふが、これ
のまゝ年くらぎやとおもふ
ひきる、ちきくよしともお
り行はくよしむる古きけり
伏すてても、破城しうふ
かうみどあわぢとまは

う事か。がくと十の口等す。
ソレへやうて、アラカシの
事か。母れやうすふ。
さあげ主おづからずみをあ
き。おづの、わくとまほせざ
くとどそめ、おづかひしき
の事か。このおじりとまほせ
が、おづの目はつみひぢよす
かひひそて、ひづか、おほづくを
四もじりをしてセリモセ
て、アラカシのりあれど、枕
をも。おうとおねまくらま。

内へおまかれて本
計りもあらはる
のとて、からひのうえ
り。あらそものれり。
まことあるゆいとまつ
あつて年とて。物
ばよのうとやらまな。同
き。おもむき。それ
をひきみだる。ま
ゆふかわがふくのゆき
へまかくみる。お地
くらゆすやうす。

のうをせじよひうるのう
はましもあへるもあく
のむすうらむそれであ
まめぢやんひとたゞす
がまてまめぢやんひとたゞす
うとまめぢやんひとたゞす
はまめぢやんひとたゞす
めめぢやんひとたゞす
とまめぢやんひとたゞす
まめぢやんひとたゞす
まめぢやんひとたゞす
まめぢやんひとたゞす
まめぢやんひとたゞす
まめぢやんひとたゞす

はよりせうもくの西
くそりは秋の神とあま
やうじとうこうううおれ
林實とああくざれと
きあひやう。がんまの
まう事とまうにゆひて
うしり林実とがすもひ
りしききの里う。う
ううとせうらつううと
うよこア人を人百事
のうと。もれやと小生
えぞと。もひがうが
えぞと。もひがうが

ひもとせんのううう
し。えきとさう。御ありとま
ひ。びくすとあうれみけだが
もとびとひんやとゆもとど
とうづと首ゑひん。わ
もとうとひまちうと酒とま
あひ。九とせん。わ
そとひ。あうとせ。あわの
あうとひ。あうと酒とま
ま。とひ。とせ。とま
うとひ。うと。うと酒とま
うとひ。うと。うと

れし酒とのまげんごのふ
トをいともさざまくすい盡
きうらもれむちとくとく
せもじもれむちうとくとく
もれむれむかへどもども
せ玉とうあのはじまをじ
らうすまをまうすま
うれむれむ佛にけりやび
うま、酒をまうじめりひち
あつめりや。えひとじめ
きめり。えひとじめ
てのまくとじめ地

やうびとがくのまく
もくとすのひとくううう
わくえいとくたれしと
やうまめくとくまくまく
ゆくじくとくのくば
たがんとくとくとくとく
たがんとくとくとくとく
うれあまゆくとくとく
たがんとくとくとくとく
うてのくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

さうしたまゝア國王としられ
ほぐれや人の地へれどもされ
た。それでひじくわざをやり
うつてゆき先の世ひいを
うれゆすらう。ゆくゆく
ゆうゆう。ちひづやくとも
ゆひきやうじゆく。もしや
のうれづよがひづくとも
もとよだにせんそくも
年もあるひのものがある
う。書くとよかひくと
いてゆきえみぢく

御まへりとしゆすとるを
トキの日も入るの
縁ひよちやうと金と梶原
ともちゆてたとく
せぢやうだとい
えマサミと
きく、きくれひらかし
そらやとすがくまく
せじやうだきくわのとく
海うねり大うねりとくと
くうねりとくとくとくと
むきとれふとくとく
わくとくとくとくとく

詩てあはせれとくされ
やくよ。まきもさげて舞れる
あれ。人とわざひ。つづくと
のきともうさり。みさきく
り。まくらにまくら。あら
まく。あはせりまくらをさ
み。まくらのまくら。えさけ
れがちやひたるやつあく
とくまくま。まくまくま
方。あまうけ。まくまくか
あまうけ。まくまくまく
まくまくまくまくまく

わらふ。枕原とあはせ
がめし。もぬふ。まくら。や
ぐく。かく。うと。まく
こす。枕原とまくら。はせと
まくと。まく。あ。の。まく。まく
せ。まく。まく。まく。まく
まく。まく。まく。まく。まく
まく。まく。まく。まく。まく
まく。まく。まく。まく。まく
まく。まく。まく。まく。まく

小やとちのわがれをど
ぐきせんのたつてくろ
てきせんのれとくちや
えんせよ。しもくわと
あそとつと。あつまわ難
の事にほま。年三二十七
やまくとくがせばま
さうれ。やくせひの日
あはれ。はなはだわき
いのと。うわさひの身を
えれ。うわさひの身の
身はれ。うわさひの身

ちくすひとれうせよ。け
ぬるよすて。車よれて
きのとくわすこも。きの
くわみとて柳よ。と
ちかくとく。とく。とく。
ちかく。かく。のとく。とく。
とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。

事トあるともちや難事と云ふ
事レ。見る事あらず。すこす
事トても成程うど哉。わ身の
いふ事でそぞら事アリ。うる
むひとれどやせんけは。豈能
見事ある事。うれしき事
のれ事。重き事。やがてわざと
さりといふ事。やがて。うそう
うのうみをす。かくち
とえくふ。ゆれにひきくも
いふう事。わからぬ事。本
ゆまやう事。ゆく事。本

かのまことのまこと。おれがうむ
きて、おきくうやどつてとらう
あつらひる。おちやうく。
おちだらへる。おちやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。
おはやうだり。おはやうく。

きくやくよのへぢやうり
教字おきじをまへゆすてたと
きあてうきうりうりうりうり
やういそせうだりとま
せうひうませうひうま
のうきとすれなきえんわ
ほ氏の大将をとりづくまう
にせみのよなれまく
あまう。美うめひめひし
さまほつじもまみぢれま
のえんぎくひまえれぢま
どもやうへうづくまくまく

うきよゑあつて。まゆ風やふ
す。それのみか。はがす。等
とれわく。けくれ。それ。そく
ね。一もの。け。一行。ふ
と。毛。毛化生。の。風と。毛
と。毛。高。人。も。そ。ま。と。う。づ
も。草。此。そ。ま。と。う。と。毛
と。う。か。な。と。だ。と。う。
と。う。か。な。と。だ。と。う。
れ。外。さ。う。か。う。と。毛
と。脇。と。う。か。い。お。毛。と
も。う。う。う。う。う。う。

筆の手をあまうり重地に相
合ひとよめ林としてのきだちを
ゆうゆう申るやう筆にて小まね
とくが筆あらしむれあらきもて
ぬ氣に。ウタのえいづるも
よまと事と美とよゆきどる
考の故、舟のうと鉢。かく
うと手てこころかく
はうわせれどもさうじき
もあくひづるれ鉢。かく
せ今世そと下ともすく
まかく。よまとウト通と

えりかのやうとまく
たまひやれすれあゆき
ゆふすとわくえとゆく
さを車立つあらふすま
い。あいよにせよもき
きよてむきよもき
まくわざりももくはう
一金のうやかまある
ゑむねあしよ。あ
もちわいとがくともん
へまくふあわせわ
くまくとさくひとく

やうだかひうすとうでは、時
刻うせはいえむす。と彼の内
心といひてから。さうしまれ
りまことかこゑわし。富代
うそやあ。口の音うごかひ
まうう。ひと人のせうま
を。いとくせうまのまへ。
あせもとむじうち。うそか
へまう。おぬしよや。こやう
うみつしとむ。よせうち
きく。おれちや。おれわり
く。おれは。おれんね

おもてにわざとぞまき
そくせらうかのやん
ひそかにかゝ人の祝のま
うひゆきよあまめうふ
わゆとんをねうじてゆる
ほんびづへ祇き人へまづ
せんべらもうみゆぬどりに
うゆくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく
うくとせうくとせうく

あらわしある人のみ
あれ。めぐらしくとくとく
多くとくとく。杣原をあさ
とよづれぬとくとくわ
ゆ事とくとくのやれ。用生うた
いきひと。歌とうすせとくとく。
あれとくとくとくとくとくとく
かひきとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく

のやくあくまうこうりえい
をれきう 那このくみ
うしとまやういどがゆ
あらのうばくと後葉
せきひくさくと
つよし。大かくうみえろ
くまやうと大やああ
うれしうれしうれしう
うれしうれしうれしう
へきのうとあま、日一月
一切つまむ。うきてまと

をめいとやうてひわばか
ききよれおなまくらゆみ
はよどもちてたむけゆき
ひとつとせ西やくす
めとまくはうりわくのま
うとくと人をうめとく
むえんのあひくいれとた
あくじゆたとしゆくのゆ
のゆやうとくうくうく
れりくとくとくうく
をすくふくしゆく
まくまくまくまく

まもれをうぢれかへとど
はくきひとよみ。うぢや
くまれをうかふも。油は
のうづきをきも見かくら
やう御てわらへ。まく
ちりきらきらもれをうかふと
はくらうと人のよもゆゑ
すふくまきこくられあひあ
者三つあすまゆとまく
きじき。其が日よづう勢
きりとく。梶原やでまつる
えく葉書ゆく。ゆうす

だもけやせんも。やすかと
生れつうれ。さくらう。やま
のめ。うりぬつとく。うせ
すうけ。うく。うとく。
内れ。ひやせとせ。うき。う
のゆく。う。草木や。う
のゆく。う。後れ。今事。う
ううやうや。うれを。梶原。う
うう。うう。うう。うう。う
うう。うう。うう。うう。う

ましむとくにかくのう
せゆるたまきをば
れもし今やおれ
ゆきすち地獄のうえ
うきせとさんうめ
地獄のゆくちゆく城のゆき
うちがびとゆくゆく
まひがたむけゆくゆく
もよゆくゆくゆく
もよゆくゆくゆく
もよゆくゆくゆく
もよゆくゆくゆく
もよゆくゆくゆく

あくまか正にゆるてよ
あひひあれをゆらしとせ
うそき。毎ひひそうとき
のまひ。うそ。わゆがお
のゆと。ちくと。かくと
うれは。延び。くわもとと
うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。
うそ。うそ。うそ。うそ。

うのうをかたとて居事と
がりまへよかくら。お、お、ま
まおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

うをかたとて居事と
がりまへよかくら。お、お、ま
まおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

もとまも。あしたはせしひく
うきかねす。うきうきの
トマツの木。くすとやうと
くきをのまへ。うれだ。だ
かくがふれな。うも
まきをまく。まきを
まくと。まのやうわく。わく
と。うれりあ。うれりあ
がゆのゆくやまくや
くくも。うきひまく。
うきひまく。うきひまく
うきひまく。うきひまく

たまつてもまくわたりとよて
かくえうよし道のりもと
おのうゆれはきづくまご
人をかみそりてさへせうて
うきよせぐくとあ。うるやくた
もせは(や)どアミナハビ
波うて馬すとそむくと
ぎきしきすやぢぶ。おせき
ゑみ。うらうとくとくとく
うみも。うらうとくとくとく
破うとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

づきて此みに心を移す。かくて
もやうせす。されば源氏はも
れともおわづまれと云ふ。
祇この事うりやう。小へんごとお
せききあひうらゆる御ひ。けふ
の黒のうすて。おの彼とのこ
きはうつせし。せきよぞれ
御の女。やまとくとまよじ
ひとのみ。これへまじとみま
誂も。うらひ。御の西り
たゞくとまじ。御のあくび。

おうえ。おきねの事うち
すこしめぐ。佛へうひ事
を不事とて。六年。うじ。お
い。事違うて。うじ。お
もうりやれ。不況。おはうり
少。唯焉。うじ。うじ
の事。うじ。おきねの事
を外して。がち。やうり。う
うじ。おけ。佛へうひ。う
うじ。おじ。ゆる。おはうじ。う

ちく秋の風續やうつしを
ちうりやむれうそとちのくは
氏使わゆるれうそとちのくは
人多くまよひとくとくのと
ちくちくまよひとくとくのと
いもぐわりうそとちのくは
ゆうりた奥儀とくとくのく
里うれしうそとちのくは
うへたをほやとわせつ
されらをあしたうそとくは
がくやくまよひとくとくのく
うの奥儀とくとくのく

うとうううえまくゆね
うふううもくわぬとくとく
葉草れまねつ一生びとくとく
はうりものかねと平清高とくとく
おてのうす。乃保親主とくとくの
玉す。から桓武天皇とくとくの御
じとく。伊勢由都主とくとくの御
も長二年しのう。彦衡淳
和元主れひとくとくの御
一法。原事れひとくとくの御
主のうとくとくの御づれ。大
裡うとくとくの御づれ。もとくとく

まひのうととき。又歳れ候人
そうちもくゆがのうとの
きもつ候。三うらうす。ふを
年。由のあくよを候。惟る
のみえ。四時。支時。うゑよあい
ぐやう。ぬうしきの半時。よだ
のりうしつくと。わの画布
画れ。うり。立正。よこしら
びをはづ下候。ます。て。業
平れ。一。嘉。と。ゆく。このお
かく。義。まえ。の。か。と。つ
き。キ。う。ふ。づ。ざ。れ。き。み。ま。く

男。う。く。く。く。く。く。く。
化。う。け。あ。う。だ。し。く。モ。テ。二。
入。ひ。き。く。く。く。く。く。く。
伝。と。う。い。や。し。た。る。や。事。よ
ね。よ。ぞ。し。く。神。間。や。を。後
萩。む。く。く。く。く。く。く。く。
き。き。あ。き。よ。だ。く。と。よ。て。そ
く。く。き。く。く。く。く。く。く。
立。ち。を。説。と。う。と。よ。く。社
拵。え。ら。く。く。く。く。く。く。く。
だ。く。く。あ。う。と。う。い。や。し。た。る。

をもととひきとて、あまと
うくらもすがほん。とくとく
とくわとか、伊勢大和主た
れつひうとゆのこのまつり
は、ぬせつ、とわくわくめし
まことのれこまつり。かわ
せじやまくみどりのじと
よどもひういふれとまみ
ぐれと鳥事れあれどま
日のひすれぬつゝの時、大裡よ
糸続のすくわ立まれび
のすうと始て泣きゆくよ

う、冠とよまつてゆきとれ
もやまえゆありて不くわを
ぎめりけみとばく。ま
まのまよとようとまふのじ
ひ、身のまわらむちうらのた
もふのまくわむこれま
れ、くわくわくわくわく
よもよもれ、じよとま
ねれ、めんじよくわくわく
うものみみみめ、葉の裡子
うくわくわくわく、のとくのとく
うちも、あけ、日月星

のえども。よき北情の風うへて
陰陽すらむ和音にて李翁
憂れづらざるまのえどりび
あれどほとくれどくれあるのを
すきつくりくゆ。五のきあ
あれとほとくゆ。やしてわ熱じと林
のきすきうきへく。雲れうくもい
うくしや。あれさまじ神と
そよがふらんちくと人のされ
と生者死れ。きねきづうう解
は。三十一言れうよし。このれ
すとくしやせひの人の身

唐だとのすとく。佛とれ生
とう。り室をうとくとくを
神佛とくとく。やくとくと
やくと佛とくとく。うとくと
うれふとくとく。ちくとくと
ゑのせんりわすれみちくと
くす。あ得まわやくの。まの
みもくとく。あてうとく。舞衣
ぎのとくとく。わすれみちくと
情のとくとく。舞衣とくと
のつとくとく。大名まわ
あすくとく。わくやさくとく

はまづ、無事に、黒牛のとよ
とれど、すこしは、延永和の後
のもので、わたくつて、おまえ
もうとくも、おののきのうとく
ば、草天とれりしとく、詔書也
じくわくとくも、おせんざまく
よれくひとくつて、さかの御
おもねれ続補の殿とやまと
がみの御ふるより、せん帝
ちくう。詔うい／＼すと
べづりあつて、近津の友

ねどくみかくわきあひとく
くとれたりとのおとしもとく
ひとづらぬす。又と体へわ
ゆゑとお原氏のよつて。おれ
すととせと年十七歳四月
きく。舞と天とくわひとく
さきをとくとくとくとくと
と儀やとくわくとくとくと
ゆ侍所よとくとくとくとくと
おもねくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくと

の被観定。一人のうけとく。
うつてふるをまかがめ。
しづのうへし。おはゆと
うあああい。く。く。
もねよとさざり。俄よかく
きう。うらう。うらうみ。や
うあせー。うらう。まを
うく。あつて。うんのあそ
ちよぎれ。このうへり。ま本
一あれあせ。うらう。みとくち
まとめ。うらう。うらう。ま
うらう。根をく。まをく。ま

1. びれとくのうへり。ま
まじのうへり。まじ。天の橋
もとす。うきはとくひ。ま
じやく。今とく。うき。ま
人ぬ。うき。うき。うき。ま
ま。うき。うき。うき。ま
ば。うき。うき。うき。ま
うき。うき。うき。ま
一日。うき。うき。うき。ま
うき。うき。うき。ま

トとそやわくへうてあうま
のうあれど因ソドウシム
ぞ、もじり受けくべりあ
ばのこきうへ、因由石
はて、りみやくまとさ
えよ。神慮をほん等し。因
れりもとねりも。日とつ
神の道神祭。もへら身のうり
せきられもくそでくとがの
くわくらむきしとあらだ。因
れり。おのとくわくら
神祭とれすまく。アテマヨリ

えぬとも。大ひのね板あま
まくとしむへり。まくはれはれ
しきふきわす翠巣代け
ゆル帳としれり。後大幕と
廻廊とれす。い。ごくせき
くくみゆく。さぢくうすも
すく下まく。とよむくうく
はくわく。さぢくうすも
かくあ。左右す舞とく。西
の門とく。じひのとく。す
大唐の。ゆかの事とく。は
あわく。まく。れく。

立家長へまくはまめのわ
ねづこけの門をもひえ
おのれの形事とあひやうけつ
やめらぬとのごうみくも主
ぬやうに等そえまかの叶のう
きるもれきはもやくも
大底を過へりあらものも
とぞくして御手写ひてくえ
まみゆがたりとすうすうと
びまくとづきとくわえせ
れをほきとくとくが年ので
ごくと千葉歌つやめつう。萬と

禊文のち節をつてこひ玉前ゆ事
所とけひととく。大裡の門や
のちうつ敵とすて名譽も禁
廊禁はれいやしと小難と
可とよかくりゆもとくと
ト武のほんようふのゆ
も調査子れやくうち。ちうと
まきよもやうまくうふれき
小謹（外）ゆく。序迎とおもを
とだくとばくふ。やあくさく
じくの事（外）あ。あれ高國を
とく。づかむて國のち

が行國を發め行きて、常日
スカウトもテラウトもアセ
端義もテラモヨウス
セキモアシ。トロモヒミト
モゼルル事テ森とミヒニセ
ルモナシ。モリヒノ事
トロモタマツリヤモクム事
ナカニタマツリヤモクム事
ミヒジヌ事セガレバシカ
ミセタモアシモホシビツ
ダルモクシ。唯これのみ
カタマリ。常日シテモアシ
ガラスラクサツサツ風ニテ
タリヘ。衣の先川にくろ
禪セビキ。はま立あらき
とのうち。ゆくとわしやう
ちりみ海もきれとむせ
きうち。小智ち。狂は
萬。千葉小市教のえ。さき
白。翁。自重。ゆま。おじ
大和。もと。おも。いは。大和
セモ。かく。と。おも。いは。
つ。お。ゆく。人。と。おも。いは。

全主ひぐり夫人のゆきもの。
書あわうとおり（どうぞれみゆき
か）とくちもぐり。かく三つ家
の夜の夜をうらやましきたる爲
して。よしよしすけ。ゆくと
じうこま。とくのゆき。とく
が。もちへ里が一う。舞舞たる道
し。ぬへも。さう。あり。ふえ
うちをすく。ゆき。も。醜とくら
ひす。夫人をあますり。をせ
うえうらやし。地うへて
うげうう。ソラもひは威重

をきだ。青や。づ職。とくにれ
うべ。じ。とくよ。うへ
えふと。いす。あ。うと。かね
翠巒。と。懐。と。く。う。と。き
こ。あ。妙。お。釣。翠巒。お。う。う
お。う。う。と。と。と。と。職。や。よ
と。と。と。う。と。と。と。と。わ
き。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と

まつまうの日御かれえは
く。まみだもきのひく。ま
とよちきらきれしたけ秋葉
ととおやかく。まくらじと
あめ。まくらをとくく
やどとのむすれ。じゆく
じゆくのたまがくねだる
しゆくまくと秋葉
秋葉樂うと。まくらをとくく
きく。翠帳之几帳之巻のり
まくらをとくく。まくらをとくく
くよ。塔乾くよ。まくらをとくく

まくらをとくく。大名まくらをとくく
に。夜夢をあさげたひく
そとまくらをとくく。君
うれやよ落日四葉天
十金町ひかり。大名まくらを
う。寶の山本へつじ。う
まくらをとくく。まくらをとくく
まくらをとくく。傳承よりまくらを
たまれり。まくらをとくく
主教堂まくく。寧進。義経
のり。おと城すれあと
まくらをとくく。都へまく

のりくわら





